

沖縄鉄軌道計画案の検討状況について

【第3回 沖縄鉄軌道関係機関等意見交換会】

平成28年6月8日
沖縄県

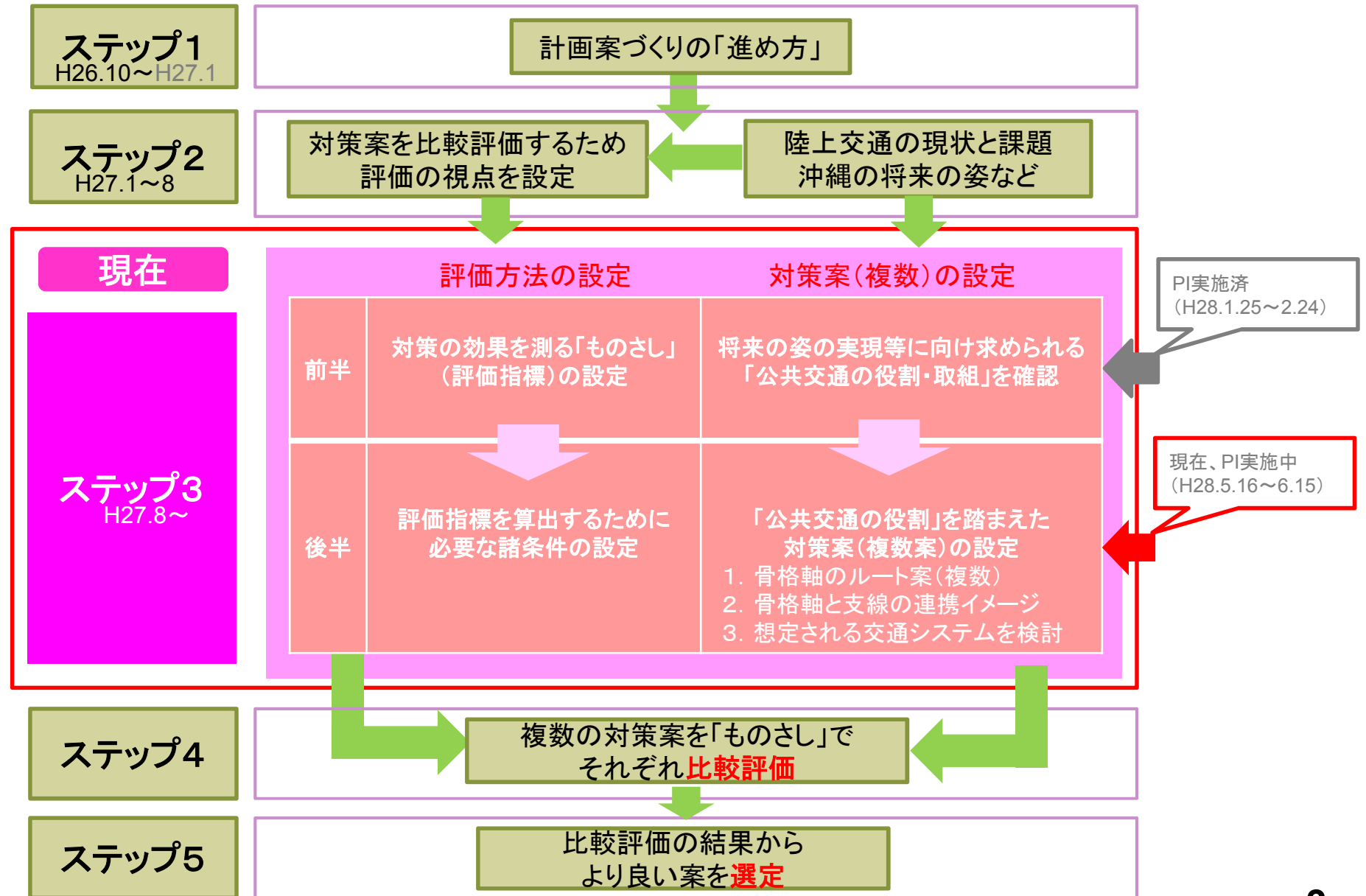
構成

1. 計画案検討の流れ
2. 対策案の検討視点
3. 今後のスケジュールについて



1. 計画案検討の流れ

計画面検討の流れ



(参考) ステップ3前半での確認事項

1 公共交通の役割・取組

- 公共交通の役割については、
 - ・将来の姿の実現の観点等から整理した「公共交通の役割」について、圏域間連携の強化、移動利便性の向上、交通の円滑化、交通渋滞の緩和等を期待する・求める意見が寄せられた。
 - ・そのうち、移動利便性の向上については、定時性、快適性、速達性、ゆっくりとした移動、移動手段の選択肢拡大、公共交通ネットワークの充実が求められた。また、圏域間の連携強化については、那覇と名護を1時間で結ぶ必要は無いとする一部の意見もあったが、北部や南部への往来が活発になる等圏域間の連携が強化されるとする意見や、北部と中南部とのアクセス向上による連携強化を求める意見、那覇と名護を1時間又はそれより早く結んでほしいとする意見が寄せられる等、公共交通に関し様々なニーズへの対応が求められた。
 - ・また、県民からは、持続可能性の観点から採算性を考慮すべきとの意見も寄せられた。
- 公共交通に関する取組については、
 - ・現在進めているバス停の整備やノンステップバスの導入等公共交通の利用環境改善に向けた取組を求める意見が寄せられた。
 - ・今後、具体的な検討が必要な取組については、鉄軌道について、人口減少や事業規模等の観点などから必要無いとする一部の意見もあったが、早期整備や実現を期待する意見が寄せられた他、骨格軸とフィーダー交通が連携する利便性の高い公共交通ネットワーク構築を求める意見が寄せられた。
- 以上から、県民等の様々なニーズに対応していくためには、将来の姿の実現等に向けて求められる「公共交通の役割」を踏まえ、現在進めている既存の公共共通の利用環境改善に向けた取組と併せて、那覇と名護を1時間で結ぶ骨格軸とフィーダー交通が連携する利便性の高い公共交通ネットワークの構築に向けて検討を進めていく必要があると考える。
- ステップ3後半以降は、将来の姿の実現等の観点から整理した「公共交通の役割」に、県民から寄せられた「持続可能性の観点から採算性（利用促進含む）を考慮した持続可能な公共交通」を、「公共交通の役割を果たしていくために必要な視点」として追加し、これら役割・視点に基づき、骨格軸とフィーダー交通が連携する利便性の高い公共交通ネットワークについて検討を行うものとする。

(参考) ステップ3前半での確認事項

2 評価方法

- ・評価については、ステップ2で整理した「事業による効果・影響」、「費用便益分析」、「採算性分析」、「事業性」、「環境」の5つの視点を求める意見が寄せられたことから、ステップ4ではこれら視点に基づき比較評価を行うものとする。
- ・また、その他視点として「帰ってきたいと思えるなど、地元意識が醸成されたかどうか、意識の変化も重要な視点」との意見が寄せられたことから、今後、手法を検討の上、鉄軌道導入による県民等の意識（意向）や行動の変化について把握し、鉄軌道導入による効果として検討を行っていくものとする。



2. 対策案の検討視点

公共交通の役割を踏まえた対策案の検討視点

将来の姿の実現等に向け求められる公共交通の役割

【圏域間連携の強化】

○広域的圏域の形成に向け、那覇と北部圏域の中心都市名護間における骨格性、速達性（1時間）、定時性等を備えた公共交通軸の構築による圏域間連携の強化

【移動利便性の向上】

○公共交通の有機的連携による県民及び観光客の移動利便性の向上

【交通の円滑化】

○県民や観光客の交通流動が多い地域における交通の円滑化

【交通渋滞の緩和】

○自動車交通が集中する地域における過度な自家用車利用から公共交通利用への転換による交通渋滞緩和

【まちづくりの支援】

・中南部都市圏の都市軸形成の支援
・中南部圏域の拠点都市を中心とした都市サービス30分生活圏形成の支援
・コンパクトな集約型市街地形成の支援
・観光リゾート地におけるまちづくりとの連携

役割を果たすために必要な視点

・持続可能性の観点から、採算性（利用促進を含む）を考慮した公共交通

公共交通の役割を踏まえた対策案の検討視点

骨格軸のルート等検討にあたっての視点

① 公共交通軸の構築

・那覇と名護間を速達性（1時間）、定時性等を備えた骨格軸として設定

② 多くの人が利用できる地域を経由

・公共交通ネットワークの骨格軸として大きな交通流動を支える

③ 自動車交通が集中している地域を経由

・自動車交通が集中する地域における公共交通への利用転換

④ まちづくり支援

・中南部都市圏の都市軸の形成強化、北部圏域や中南部圏域のまちづくり支援

上記の視点に加え、持続可能性の観点から採算性を考慮する。

※留意事項

・骨格軸は、速達性を重視することから、ルート検討にあたっては極端な大回りにならないよう考慮する。

フィーダー交通検討にあたっての視点

① 骨格軸と地域を効率的に結ぶ

② 既存の公共交通ネットワーク及び利用状況、まちづくりを考慮

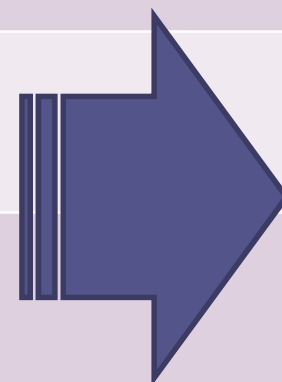
上記の視点に加え、持続可能性の観点から採算性を考慮する。



3 今後のスケジュールについて

検討スケジュール(予定)

STEP	STEP3										STEP4~5
月	H27		H28								
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9~12
計画検討委員会		12/11 ◆				4/19 ◆				8 ◆	
技術検討委員会	11/13 ◆				3/29 ◆						
プロセス運営委員会		12/18 ◆				4/27 ◆				8 ◆	
P I					NL 1/25~2/24 第1回PI(意見募集30日)			NL 5/16~6/15 第2回PI(意見募集30日)			



計画案決定